

交通まちコミュニケーション特論

授業科目名	交通まちコミュニケーション特論	単位数 2 単位
英語標記	Fieldwork for traffic & urban communication	
授業コード	360408	
受講人数	15 人	
担当教員	森栗 茂一	
対象	全研究科大学院生、、一部学部生、社会人（2 名程度）	
開講時間等	第 1 学期＝月曜日 2 限	
開講場所	豊中キャンパス：大学教育実践センター学生テラス 2 階セミナー室 II	
キーワード	交通まちづくり、中心市街地活性化、団地再生、マルチモーダルシフト、住民協働	
授業の目的	過度な自家用自動車（以下、クルマと称す）依存は、地球温暖化促進のみならず、人と人とのコミュニケーションを阻害し、中心市街地空洞化、オールドニュータウンの衰退を招いています。神戸市住吉台のくるくるバスや各地の交通まちづくりのアプローチの実際に学びつつ、中心市街地の衰退、少子高齢化やオールドニュータウン、温暖化防止の観点から、どのような施策が可能なのかを議論することを目的とする。 〈到達目標〉クルマ依存を排する交通を、まちづくりの観点から見る視点を学び、その議論のプロセス、政策デザインの議論のデザイン・実践方法の初歩を習得する。	
講義内容	1 文系研究者の挑戦―都市生活誌から土木へ 2 討論：文系から総合計画へ 3 住吉台くるくるバスと住民協働【資料 1】 4 討論：くるくるバスから学ぶ 5 【資料 2】クルマの社会的費用＋討論 6 住吉台のソーシャルキャピタル評価 7 【資料 3】討論：ソーシャルキャピタル評価 8 新しい公共：協働の評価方法（森栗、八木） 9 討論：新しい公共（八木コメント、森栗） 10 地域の暮らし方を変える―富山革命 11 地域の暮らし方を変える―地域公共交通戦略 12 地域の暮らし方を変える―広島都市圏運輸連合 13 地域の暮らし方を変える―オールドニュータウン 14 地域の暮らし方を変える―神戸市環境実行計画 15 討論：地域を変えるコーディネート力（学部生は 12/18 中之島で発表、院生は受講） 以上の順で講義をすすめる予定。状況により変更もありえる。 op 4/23 交通政策ラボカフェ（なにも橋駅 B 1）などに参加を勧める	
教科書	【資料 1】森栗「くるくるバスがもたらした持続可能なオールドニュータウン」『交通工学』42、2007 年。森栗「交通を活かしたまちづくりと市民参画・協働・ボランティア起業」『都市問題研究』696、大阪市都市問題研究会、2008 年 【資料 2】宇沢弘文『自動車の社会的費用』岩波新書 【資料 3】森栗「交通計画における住民協働の有効性と展開手法」『運輸と経済』第 69 巻第 12 号、2009 年。	
参考書	ブログ：森栗茂一のコミュニティ・コミュニケーション（昨年度授業、資料を掲載）。専門職の	

	高度教養なので、学部生は事前に必読。
成績評価	毎回、発言カードを書き討論する。回収してそれを評価する。出席 50%と議論 50%。
履修条件・受講条件	全研究科大学院生（社会人 2 名程度）、一部学部生 専門職として受講必要を考える「学部生」は、4/5 or 4/12、10 時－ 豊中ステューデントコモン 4 階研究室で面接を要します
その他	社会人、文理融合に関心のある方の受講を歓迎します。 意欲のある学部生、交通に関係のない学部生、院生の挑戦を待ちます。